

令和 2 年度 学校 経営 計画

1 学校教育目標

自立と社会参加を目指し、明朗で協調性に富む、健康な児童生徒を育成する。
校訓 「明るく 仲よく 元気よく」

2 学校の特徴

- ・ 知的障害や肢体不自由のある児童生徒を対象にした新川地域唯一の特別支援学校である。児童生徒の約 8 割が自宅から通学しており、その他は隣接の児童福祉施設から通学している。
- ・ 小学部・中学部・高等部のほか、通学して教育を受けることが困難な児童生徒のために訪問教育を開設している。
- ・ 一人一人の可能性を最大限に伸ばすとともに、個別の教育支援計画に基づいて将来の生活の自立や、よりよい社会参加ができる児童生徒の育成を目指している。
- ・ 学部や学年の行事を通して、社会的な体験を広めるとともに、近隣の幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、中学校、高等学校及び地域の方々との交流教育を大切にしている。
- ・ 関係機関と連携しての早期教育相談を実施するとともに、小学校・中学校・高等学校への支援等では、特別支援教育コーディネーターを中心に新川地域における特別支援教育のセンター的役割の充実を図っている。
- ・ 校内実習や就業体験、関係機関との連携を通して、卒業後の豊かな生活を目指した職業教育や進路支援に努めている。
- ・ 医療的ケアの必要な児童に対する教育活動への適切な支援を行うために看護師が配置されている。

3 学校の現状と課題

(1) 現状

- ・ 教育の対象が知的障害及び肢体不自由である。年々、児童生徒の障害の重度・重複化、多様化が進んでおり、医療と密接な連携を必要とする重度の肢体不自由児童生徒が在籍している。
- ・ 児童生徒一人一人の状態や教育的ニーズに応じた指導の充実を図るため、学校・保護者・隣接児童福祉施設が協力して個別の教育支援計画の作成や情報共有を行うなど連携を図っている。
- ・ 児童生徒一人一人が集団の中で主体的に学習や学校生活に一層取り組めるよう、教員の ICT 活用能力を推進する必要がある。
- ・ 児童生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、キャリア教育の理解・推進を図っている。
- ・ 新川地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすことが求められており、小学校等への支援に積極的に取り組んでいる。
- ・ 小学校・中学校・高等学校・地域との交流及び共同学習を継続して実施している。

(2) 課題

- ・ 障害の程度や発達の状態に合わせた指導の充実
- ・ 健康で安全な学校生活の推進
- ・ 児童生徒一人一人が主体的に取り組む学習指導の充実
- ・ 特別支援教育に関する ICT 活用能力の充実
- ・ 多様なニーズに合わせた進路指導の充実
- ・ 特別支援教育のセンター的機能の充実

4 学校教育計画

項 目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団の中で一人一人が、主体的に取り組む力を培う学習指導の充実を図る。 ・ 小・中・高等部の一貫した支援の充実を図る。 ・ 自立と社会参加に向けた学習指導の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学部、中学部、高等部での学びの系統性や一貫性、また、学びの深まりを意識し、「適切な支援や評価」を検証しながら、自立と社会参加に必要な力を培う学習指導に取り組む。 ・ 実態に応じて作成した評価規準を活用し、授業改善に生かす。
2	学校生活	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活や社会生活に必要な力を身につけ、生活に生かす態度を育てる。 ・ 児童生徒の健康で安全な生活を保持・増進するための習慣・態度を育てるとともに、学校環境の整備を行う。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手洗いチェックカードを活用し、他者及び自己評価を基に正しく手洗いができるよう指導する。
3	進路支援	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の多様なニーズに合わせた進路支援の充実を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関と連携を図って、進路支援に必要な情報を収集・整理し、懇談会や校内掲示、各種通信等を通して本人や保護者に提供する。 ・ 「進路指導の手引き」を活用した教員対象の学習会や卒業生のアフターケアを通して進路指導に関する充実を図る。
4	特別活動 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒会活動、学校行事等を通して、児童生徒の自主性、社会性の育成を図る。 ・ 本や読書への興味や意欲を高め、読書を楽しむ態度を育てる。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒会を中心として、挨拶運動を推進する。 ・ 図書の実用、図書室の環境整備、活用方法の工夫を行う。
5	その他 重点3	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育のセンター的役割の充実を図るとともに、特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図る。 ・ P T A会員の積極的な事業への参加を促し、P T A活動の活性化を図る。 ・ 教員の知的障害教育、肢体不自由教育等の専門性の向上を図る。 ・ 教員の I C T活用能力の向上を図る。 ・ 各学部・分掌、担任業務の効率化を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内の特別支援教育コーディネーター連絡会を定期的開催して、相談事例について、アセスメントを基にした支援方法や相談の評価を踏まえた支援の改善等について検討し、小・中学校等への支援を進めるとともに、関係機関と連携等しながら専門知識の習得を図る。 ・ 親子活動、進路に関する取組等を行い、P T A活動への興味関心が高まるよう、取組の方法や内容を工夫する。 ・ 全体研修会や学部研修、授業実践等を通して、教員の資質向上を図り、自立と社会参加を目指した授業づくり・授業改善を行う。 ・ I C T機器活用に関する研修会を実施し、授業実践に生かす。 ・ 諸帳簿の入力業務の見直し、児童生徒の基本データの集約、管理を行う。

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和2年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動（小学部）
重点課題	集団の中で、一人一人が主体的に取り組む姿を目指す学習指導の充実を図る。
現 状	<p>昨年度は、新学習指導要領における育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいて「主体的に取り組む姿」の共通理解を図り、授業実践をおこなった。授業の中で「学習の意味づけ」や「目標設定確認・振り返り」の学習活動の設定の工夫を行い、児童が意欲的に学習に取り組む姿が多くみられた。</p> <p>今年度は、昨年度の研究成果と課題を踏まえ、各教科等を合わせた指導や教科などの授業について、観点別学習状況の評価に基づき「教師のための授業改善ポイント」を活用しながら、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業づくりを行いたい。</p>
達成目標	<p>学部全体で検討する2つの授業に対する授業づくりの検討会の実施回数</p> <p>1授業に対し3回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す児童の姿を実現するために必要な学習内容等を教科等横断的な視点で確認し、年間指導計画の見直しを行う。(年2回) ・研究グループは、1・2学年、3・4学年、5・6学年グループとする。各グループで前期1授業、後期1授業を取り上げ、授業づくりを行う。その中から前期・後期各1授業を学部全体で検討する授業とし、授業参観及び協議検討などを行う。対象授業以外の学年グループは、対象授業の成果を生かした授業づくりを行う。 ・授業研究は、学部検討会①（指導案検討）→授業→学部検討会②（事後研究会）→授業改善→授業→学部検討会③（事後研究会）の流れで行う。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和2年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 2 -					
重点項目	学校生活（生徒指導部）				
重点課題	挨拶を自分から進んで行う力の育成				
現 状	<p>挨拶することはコミュニケーションをとるために大切な一歩であり、「誰とでも、どこでも、そして自分から」を目標に毎年挨拶運動を実施している。挨拶運動後は挨拶する姿が見られるが、時間経過とともに挨拶する児童生徒が少なくなっており、昨年は年間4回の挨拶運動を2回増やし6回実施した。大人が挨拶をすると返してくれる児童生徒は増えたが、自主的な挨拶をする児童生徒は増えていない。</p>				
達成目標	<table border="1"> <tr> <td>児童生徒会主体の挨拶運動の実施</td> <td>児童生徒会執行部と教員による評価の向上</td> </tr> <tr> <td>年6回以上</td> <td>「良くなった」が70%以上</td> </tr> </table>	児童生徒会主体の挨拶運動の実施	児童生徒会執行部と教員による評価の向上	年6回以上	「良くなった」が70%以上
児童生徒会主体の挨拶運動の実施	児童生徒会執行部と教員による評価の向上				
年6回以上	「良くなった」が70%以上				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・全校集会で児童生徒会執行部が挨拶運動を周知する活動を行う。 ・児童生徒会執行部が全校放送を使い、挨拶運動に合わせて挨拶の啓蒙を行う。 ・挨拶の大切さを訴えるポスター作成を募集し、掲示する。 ・進んで挨拶しているか、学年や学部を超えて挨拶しているかなどのアンケートを第1回挨拶運動前、中間に行い、評価向上が見られない場合は執行部と対策を考え実施する。 				

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他（情報図書部）
重点課題	教員のICT活用能力の向上を図る。
現 状	<p>富山県のICT教育推進事業により、昨年度3学期にiPad20台が配備されICT機器の整備が進んだ。各学部に分け、授業で使用し始めているが、教員の得手不得手もあり、教材の提示手段としての活用が多い。今後の使用に関して、以下のような課題が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の実態に合わせた活用 ・学習目標の達成につながる活用 ・児童生徒が自分で使うこと
達成目標	<p>ICT活用能力の向上を図る研修会の実施回数</p> <p>年間3回以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のICT機器利用に関する情報の収集と教員から活用にあたってのニーズの調査を行う。 ・調査した結果に沿って、「基本操作編」「授業でのアプリ活用編」等、目的別に内容が異なる研修を7～8月に実施する。 ・先進的な実践校の情報を収集・分析し、本校で活用できる内容を精選して校内で伝達する。

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)